

都有施設だより 第12号

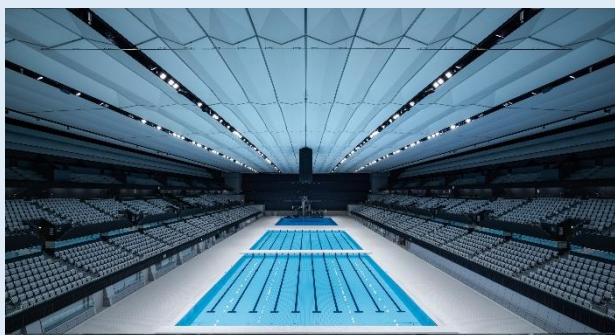
都有施設の維持管理などの取組についてお知らせします。

都有施設の計画的な維持管理・更新、都の施策を反映した都有施設の機能・性能のレベルアップなどの取組についてお知らせしていきます。



今回は**2つの取組**をご紹介します！

東京アクアティクスセンター



Point!

電気設備及び機械設備

3 R の 推 進

インクルーシブな公園づくり



Point!

整備の考え方

主な遊具

東京アクアティクス センター



施設概要

所在	江東区辰巳2-2-1(辰巳の森海浜公園内)
席数	約5,000席 (大会後)
階数	地上4階、地下1階
工期	令和3年10月14日から令和5年2月28日まで (大会後改修)
再開業	令和5年4月1日

本施設は東京2020大会の水泳会場として令和2年2月に新たに整備された水泳場で、「最高の競技・観覧環境」を有する水泳の聖地、子供から高齢者まで誰もが利用でき、賑わい創出の中心として広く愛される施設を目指した施設となっている。

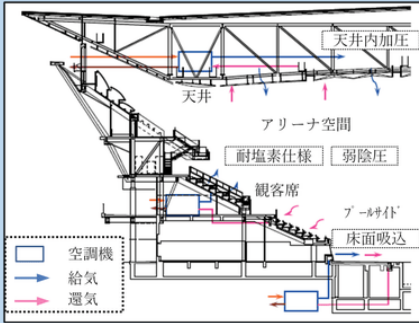
< 施設の外観写真 >



施設内には国際公認規格のメインプール、サブプール、ダイビングプールを備えている。設計ではアクセシビリティの検討、環境に配慮した太陽光発電、太陽熱・地中熱利用、コージェネレーションシステム等省エネ再エネ設備の積極導入を行った。次ページで、代表的な建築設備技術、3R（主にリユース）の推進などについて紹介する。

電気設備及び機械設備

< 空調概念図 >



< ろ過機械室 >



< 競技用照明外観 >



引用:パナソニックHP

本 施設の競技用照明設備は一般競技から国際大会の公式競技まで対応できる照明基準を満たし、加えてテレビ撮影への配慮、競技者へのグレア（まぶしさ）に十分検討を行っている。全てLED照明で296台設置しており、プール空間で使用するため、耐塩素仕様としている。メンテナンス性、イニシャルコスト的に優位性の高いものとなっている。

国 際公認プール規格を満たし、臭気が少なく透明度の高い世界最高水準の水質を確保することを目標とし、維持管理性に優れる砂ろ過方式を採用している。空調設備においては塩素及び塩素臭による対策を重点的に検討し、塩素を含む多湿な空気の上昇を防止し、鉄骨等の腐食を抑制する等している。

3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進

< 有明コロシアムの空調機（移設前） >



< 仮設観客席用空調機（移設後） >



整 備に当たっては、大会後に撤去・改修工事を行うことを踏まえ、環境負荷低減及び持続可能性に配慮する仕組みとして3Rを推進している。特徴的なリユースの取組み二点を紹介する。一点目は、他の都有施設で不要となった設備を本施設でリユースした点である。東京2020大会用の仮設観客席約1万席分の空調設備には、有明コロシアムで使用していた空調機や送風機等を移設し再利用した。整備費縮減と環境負荷低減の両立を図った取組と言える。二点目は、再開業に向けた改修工事において撤去部材のリユースを図っていることである。本施設での再利用のほか、庁内各局、都内外各自治体、公益施設等に無償譲渡を広く呼びかけ、多種多様な部材を再び活かす取組を進めている。

インクルーシブな 公園づくり (府中の森公園 にじいろ広場)



はじめに

都立公園ではこれまでも「東京都福祉のまちづくり条例」や「東京都立公園における移動等円滑化の基準に関する条例」に基づき公園のユニバーサルデザイン化を推進してきた。また、さらに公園利用者の多様なニーズに応え、様々な立場の来園者が快適に利用できる公園環境を目指すため、車いす利用者や体幹の弱いこども、視覚障害のあるこどもなど、誰もが共に楽しむことができ、誰もが遊べる遊具広場の整備を進めてきた。「だれもが遊べる遊具広場づくり」(通称「インクルーシブな公園づくり」)の取組として令和三年度にオープンした府中の森公園「にじいろ広場」の整備を紹介する。

整備に当たって

だれもが遊べる遊具広場は、障害のあるこどもを特別扱いするのではなく、だれでも当たり前のよう利用でき、楽しめる遊び場をつくるという考え方に基いている。整備に当たっては、関係者や有識者への意見聴取を行い、整備の考え方を整理している。

< にじいろ広場の概要 >



整備の考え方

障害には様々な種類があるため、意見聴取においては、多様な障害の特徴を理解し、遊具広場に求められる要件を把握する必要がある。アンケートを行った結果、障害の種類が異なっても、体幹の弱い子どもにも対応した遊具や、介助者が付き添ってくれる遊具、広場内でハイハイで回るような手足が汚れにくいクッション素材の舗装、迷子や飛び出しを防止するための囲いがあるというといった、共通する意見があった。その他様々な意見を集約することが分かった。その他様々な意見を集約し、多くの子どもと一緒に楽しめる遊具を複数取り入れることとした。

主な遊具



複合遊具：スロープにより車いすがトップデッキへアクセスできる。スロープやデッキにはパネル遊具が設置されている。



いす型ハーネス付きブランコ：身体を支える力が弱い子どもでも揺れを楽しむことができる



トランポリン：車いすからも乗り降りしやすくなっている。降雨後は安全に利用できるよう清掃をしている。



サンドテーブル：車いすに座ったままみんなと一緒に砂遊びができる



スプリングシーソー：幅広の座面で友達、介助者とともに利用できる



クライムネット：バランスをとったり寝転んだり、リラックスした時間を楽しめる